

# 授業実践講習会「Open Cafe」による地域貢献の推進

学籍番号 159964

氏名 田中 賀

主指導教員 木原 俊行

## 1. 所属校における「地域貢献」の状況の必要性

本研究の目的は、所属校における「地域貢献」を推進させることである。また、所属校の教育研究を「地域のニーズを踏まえた」取組へと成長・発展させていくことを目標とする。文部科学省の平成20年度文部科学白書第1部第2章「大学の国際化と地域貢献」では、「地域社会において、大学が地方公共団体や企業などと連携して様々な取組を展開し、地域のニーズを踏まえた教育研究を行っていくことにより、地域の発展に貢献していくことが、大学の果たす社会的貢献の一つとして重要になってきています。」とある。これは、現在附属学校における地域貢献のあり方が問われていることを示唆している。

筆者は、所属する国立大学法人附属学校で、その任務の1つとされている「地域貢献」に焦点を当て研究を進めることとした。本研究では、所属校における「地域貢献」の実態状況を正確に捉えるため、全国の附属学校と比較した。他附属では、地域貢献をどのような形で果たしているのかを明らかにした。そして、これまでの所属校における「地域貢献」の在り方について考察し、その実態から問題の所在を明らかにしようとした。そのためにさまざまな先行研究や過去の研究の知見を手掛かりとして、所属校で取組を実践的に進めていく。しかし、現在の所属校では、教員の入れ替わりが激しく、その研究の存続自体に大きな課題を抱えている状況でもある。所属校における問題の所在を明らかにする中で、その解決方法として、「チーム学校」の理念に基づいて組織的な運営方法を手掛かりとして、地域貢献推進のための取組として「Open Café」、「Inner Café」、「Study Café」の2年間の実践研究計画を立てて進めることとした。所属校における地域貢献の推進は、外部へ所属校の取組を発信する「Open Café」と外部へ安定した指導力を供給するための「平野スタイル」の継承をめざした校内研修会「Inner Café」の2つの柱で成り立つと考える。

## 2. 授業実践講習会「Open Cafe」企画・運営

所属校における地域貢献を推進するための方策として取り組んだ「Open Café」は、参加対象者を公立学校の初任者教員や経験年数の少ない教員、将来教職を志す学生を対象とした授業実践講習会である。平成25年度より着手した取組である。

教員の自主的参加メンバーによって構成された研究プロジェクトの1つとして進められてきた「Open Café」は、平成28年度には研究の1つの柱として所属校の研究として位置づいた。

また、「Open Cafe」は「公開授業」「講習会」「全体会」の3部構成となっており、そのコンセプトとして、コーヒーを飲みながら教員同士が語り合える雰囲気の中で公開授業から感じた疑問や日頃の悩みを打ち明けたり相談したりできる場の設定をめざした。

筆者が企画・運営してきた「Open Café」は、その準備から実施に至るまでに所属校の教員集団によって進められる。筆者は、「Open Café」公開授業において教員集団へ支援したり、講習会・全体会の運営を円滑に進めて行くためにさまざまな工夫をしたりすることでこの取組を推進してきた。そして所属校の地域貢献の取組として確立するに至るまで組織的な取組へと成長・発展してきた。しかし、企画・運営していく上で、役割分担の徹底が不十分なことによる運営面の課題や参加者数が少ないことから開催日程の設定に課題もみえてくる。

### 3. 「平野スタイル」の共有化-「Inner Cafe」の企画・運営-

「Inner Café」は、所属校の1年目の教員の「平野スタイル」の継承を目的とした取組である。

「Inner Café」は2部構成であり、「Inner Café 1」では、2年目以上の教員が授業を公開し、1年目の教員が参観する。「Inner Café 2」では、1年目の教員が授業を公開し、2年目以上の参観した教員からアドバイスを得る。このようにして1年目の教員に「平野スタイル」を継承し、教員の入れ替わりの激しい所属校における問題を解決しようとしたのである。さらに、「Inner Café」で重要視したのは、「平野スタイル」の視点の明確化である。「Study Café」によって教員間で共通理解した「平野スタイル」の4つ視点「板書」「発問」「学び合い」「ICT」をもとに、参観ワークシートを作成した。こうした実践を重ねることで1年目の教員に「平野スタイル」の定着化を図っていった。また、運営面において公開授業計画表を作成し、2年目以上の教員による多くの授業が公開されるように工夫した。さらに、学びを全体で共有するための参観ワークシートを掲示したり、学びを深めるために1年目の教員に聞き取りを行ったりして支援の方法を工夫する中で取組を進めていった。

### 4. 地域貢献における成果と課題

筆者は、これまで授業実践講習会「Open Café」の開催によって、地域貢献を推進することを目標として研究を進めてきた。「Open Café」の有用性については、参加者・教職員アンケートからもその実施の妥当性を見取ることができる。また、附属校の教員入れ替えりによる研究の継承問題においては、「平野スタイル」の共有化をめざした校内研修会「Inner Cafe」の実施によって学習スタイルの継承の体系を構築することにつながった。さらに取組の手順や資料をまとめた「地域貢献推進マニュアル」を作成したことで、次年度以降も持続可能な取組としての礎を築くことができ今後の附属校の地域貢献の在り方について一定の成果を示すことができた。

一方で、「Open Café」の参加者数が安定しないことで授業者に心理的負担をかけたり、情報発信不足があったり、開催日の設定における課題や運営面における課題もみえてきた。

今後は、「Open Café」で安定した参加者数の供給源として教育行政との連携を進めていくことで、より地域貢献の裾野を広げていくことをめざしていく必要がある。